

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐久市立岩村田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	5	4	4	5	4	2	30	41
児童数	192	163	145	151	188	159	6	1004	

研究の概要

1. 研究主題

教育課程編成プラン(岩小プラン)に基づく学力向上を目指した実践研究

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 4、5、6年生・算数
子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため
- ・ 3年生・国語
国語科における学力向上を目指した実践研究を推進するため
- ・ 6年生・国語と理科
教科担任制を実施

(2) 年次ごとの計画

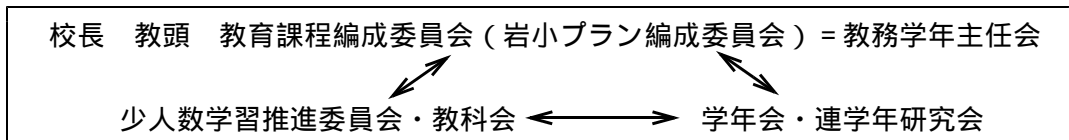
平成14年度	<p>テーマ 教育課程編成プラン(岩小プラン)に基づく学力向上に向けての実践研究 研究の見通し(仮説) 教師間の綿密な連携によって、基礎・基本の定着をねらった個に応じたきめ細かな指導のコース別学習を充実させれば、確かな学力の定着が見られ、意欲的な追究の姿につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 複数指導を取り入れ、基礎を固め、発展的な力を高める算数の少人数コース別学習 少人数推進委員会が中心になって計画を立て、教科会・学年会・連学年研究会との連携を綿密にとり、実践・評価を行う。</p> <p>イ 子どもの興味・関心を生かして発展的内容に取り組む、国語の課題別学習 学年会・連学年研究会が中心となって計画を立て、教科会が協力して実践・評価を行う。</p> <p>ウ 教員の得意分野を生かした教科担任制の導入 学年会を中心に情報交換し合い、それぞれの得意分野を生かし、学年内交換授業を行う。</p> <p>個に応じた指導のための教材開発</p> <p>ア 発展的な教材の開発</p> <p>イ 補充的な教材の開発 学年会が中心となり、子どもたちの実態をふまえ、少人数推進委員会・教科会と連携をとりながら検討し、教材開発を行う。</p> <p>学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>ア 評価計画の明示 ・ 評価規準、評価方法の作成 ・ 指導と評価の計画を盛り込んだ単元展開の作成 ・ 単元末における、各観点の評価項目の扱いの検討</p> <p>イ 評価場面の的確な位置付け ・ 評価項目の絞り込み</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・個の伸びを見定める補助簿や座席表の活用 ウ 評価を指導に生かす ・追究途上での評価を基に、具体的な手だてを講じる ・個の追究を全体に位置付ける ・教員の指導に対する評価を得る 教育課程編成委員会（岩小プラン編成委員会）が計画・立案し、教務学年主任会で練り、全体研究会で説明して各教師が実践・評価を行う。
--	---

平成 15 年度	<p>テーマ 教育課程編成プラン（岩小プラン）に基づく学力向上を目指した実践研究 ～岩小プランの深化・発展・応用～</p> <p>研究の見通し 基礎・基本の定着の基に、発展的・補足的な教材化の工夫をし、子どもの実態をふまえて授業の活性化を図れば、学力の向上につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 基礎を固め発展的な力を伸ばしながら、筋道を立てて考える力を高めていく算数の少人数コース別学習</p> <p>イ 指導目標・内容の体系化と継続学習によって、心で感じ取り生きて働くことばを獲得していく国語学習</p> <p>ウ 教員の得意分野を生かした教科担任制の積極的な導入 個に応じた指導のための積極的な教材開発 日常的な授業に向けての学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>以上、 の主な内容及び全項目の方法は平成14年度と同じ。</p> <p>* テーマの表記・研究の見通しを鋭角的にした。また、算数・国語の研究内容は、年度当初の子どもの実態をふまえ、変更した。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 教育課程編成プラン（岩小プラン）に基づく学力向上を目指した実践研究 ～岩小プランの深化・発展・応用～</p> <p>研究の見通し 基礎・基本の定着の基に、発展的・補足的な教材化の工夫をし、子どもの実態をふまえてより授業の活性化を図れば、更に学力は向上するだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 基礎を固め発展的な力を伸ばしながら、筋道を立てて考える力を高めていく算数の少人数コース別学習</p> <p>イ 指導目標・内容の体系化と継続学習によって、心で感じ取り生きて働くことばを獲得していく国語学習</p> <p>ウ 教員の得意分野を生かした教科担任制の導入 学年会・連学年研究会を中心に情報交換し合い、それぞれの得意分野を生かし、必要に応じて学年の枠を広げて交換授業を行う。 個に応じた指導のための充実した教材開発 日常的な授業に向けての学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>以上、 の主な内容及び全項目の方法は平成14年度と同じ。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について

- ア 基礎を固め発展的な力を伸ばしながら、筋道を立てて考える力を高めていく算数の少人数コース別学習
- ・自ら選択しての課題や理解度に合ったコース別学習で、自らの学びの過程を振り返りながら、めあてを持って生き生きと学習に取り組み、学ぶ楽しさを感じ取る姿が多く見られるようになってきている。
 - ・5年「面積」の単元では、じっくり・しっかり・ぐんぐんと名付けて習熟度別のコース別学習を行ったが、特にじっくりコースのH児は以下のように考える力を高めていった。
プレテストで斜辺を含む面積の問題には手がつけられなかったH児に方眼入りの図を教材として与え、個人追究をさせたがなかなか追究の見通しが持てなかった。そこで多様な考えにふれるべく友達との情報交換の場を設けたところ、半端な部分を組み合わせて1平方センチメートルにして方眼を数えればよいことに気付いた。その手だてが有効に働き、H児は平行四辺形の等積変形を通して、斜辺を含む面積も敷き詰める形になおして考えればよいことを学び、更に平行四辺形の面積の公式を新しい知識として活用し問題を解いていった。このことにより学ぶ意欲も高まっていった。このように子どもの実態を把握し有効な手だてを講じたために、考える力が高まった事例はたくさん見られた。
 - ・本校の課題となっている「数学的な考え方」に視点を当てて分析してみると、過去3年間を振り返って以下のように力を付けてきている。
じっくりコースの理解度は平成13年度の12.5%から平成15年度は41%と大きく伸び、しっかりコースでは32.6%から55.1%へ、ぐんぐんコースでは62.4%から77.4%へと伸びている。特にじっくりコースでは指導内容を厳選し繰り返し指導を行ってきたこと、総じて個に応じたきめ細かな指導や教材開発が功を奏したと考えたい。
- イ 指導目標・内容の体系化と継続学習によって、心で感じ取り生きて働くことばを獲得していく国語学習
- ・日常の内面の耕しを重視し、発見カード・観察メモ等を活用した継続学習によって、発見し心で感じ取ることができるようになった子どもが増えたことが、表現からつかみ取れた。
- ウ 教員の得意分野を生かした教科担任制の導入
- ・国語と理科の学年内交換授業により、子どもたちからは「次の授業が楽しみ」「担任じゃない先生にほめてもらえるので励みになる」、教師からは「子どもの多様な考えにふれることができ、教材研究・指導研究に生かすことができ、子ども理解につながる」といった声が聞かれた。
- 個に応じた指導のための積極的な教材開発
- ・算数において、主にぐんぐんコースの子どもたちには発展的な教材の開発を、じっくりコースの子どもたちには補充的な教材の開発を積極的に行い、付けるべき力を付け、伸びる力を伸ばす指導に役立った。
- 日常的な授業に向けての学力の評価を生かした指導の改善
- ・個の伸びを見定める補助簿としての役割を持ち、評価規準を記載した座席表を考案し、有効活用できた。
 - ・単元末における各観点の評価項目の総括については、コンピュータ入力しなくても誰でも容易にできるように、単元末にAが半数以上あればA、Cが半数以上あればC、その中間はBというように簡便な方法を考え、おもに算数コース別学習において効果的に活用している。

2. 今後の課題

今までの研究成果を生かして、次年度以降も岩小プランに基づき、より充実した質の高い実践を積み重ねていく。特に算数に関しては、本校の課題である「考える力」が高まるよう、更なる授業改善に向けて具体的な方策を練っていきたい。国語に関しては、ことばを大事にした継続的な学習を取り入れて基礎的・基本的な力が付くようにし、個に応じた少人数学習のあり方を模索していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

CRT学力検査による学力調査を実施しての経年比較（年1回）
市販の算数テストを実施しての経年比較（適宜）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究会、説明会等の開催実績
- ・ 県内・佐久地区でのフロンティアスクール事業中間発表会
平成15年6月26日（木）午後1時30分～5時、佐久合同庁舎で発表を行う。学力向上を推進する学校代表の教員が参加。
 - ・ フロンティアスクール公開授業研究会
平成15年11月27日（木）午後2時～5時、本校で算数と国語の授業を公開する。県内外の教員が参加。
 - ・ 県外の教員、大学職員による年4回の視察団に、算数コース別学習授業参観と説明会の提供。
- 研究成果普及のためのHP作成
- ・ 今年度の実践研究を載せて、更新していく予定。
(<http://www.city.saku.nagano.jp/schools/iwamura-e1/>)
- 研究成果の普及活動の成果
- ・ 研究実践をまとめた冊子「岩小プラン」を佐久地区管内63校を中心に発信し、研究成果を佐久地区教頭会で発表したこともあり、他地区からも「岩小プラン」への問い合わせがあり、冊子を斡旋している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無